

### III. ビッグヒルズの暮らしと風景

# 1. 新しいまちを発見し、飯能のまちを再発見する — まちに学ぶ・まちに遊ぶ

ビッグヒルズと飯能—互いのまちの楽しさを知る

ビッグヒルズは新しく美しい環境を実現し、まちとしての歴史をこれから刻んでいく。一方、ビッグヒルズの母都市である飯能の既成市街地は古くからの交通の要衝の地として永い歴史を有し、町の中にその歴史性を刻印している。木材の集散地として、また周辺の産物を店先に並べる生業や歴史的建造物、環境、地名の中に、永い土地の歴史を表現している。

母都市としての既成市街地とその郊外に位置する新しいまちはさまざまな連繋により共生し、やがて一体化して、より大きな都市や生活圏へと発展するものであり、ビッグヒルズと飯能の既成市街地とそのあいだでも、さまざまな一体化の手だてが講じられる必要があるが、その基調は各々の地域に住む人が互いのまちの楽しさや良さを知り合うとともに、ユーザーとして互いのまちを利用し合うことである。ビッグヒルズはその美しく整備された環境や都市的魅力のあるセンター地区、そして広大な緑空間を共に利用し、一方整備された新しいまちに住む人々にとって人間味溢れる路地裏や界限性のある商店街などをもつ飯能の既成市街地は大きな魅力であり、ビッグヒルズの住民には楽しいワンダーランドになる。

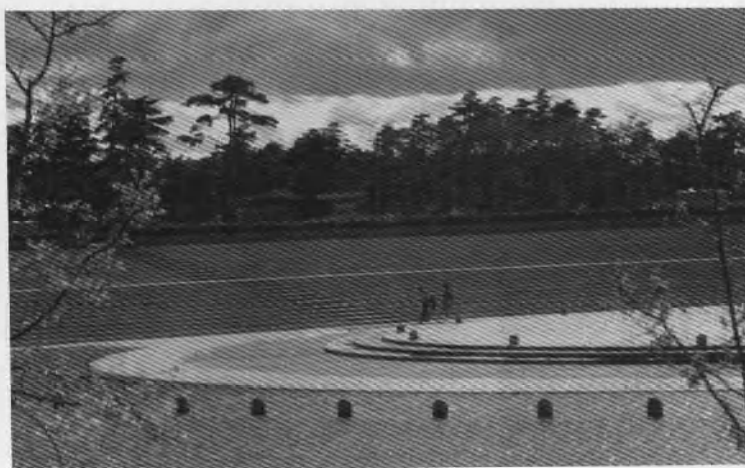
このような、互いのまちの良さを発見し、再発見するところから一体化への道がはじまるのである。



歴史のある街の楽しさ



美しい新しい街

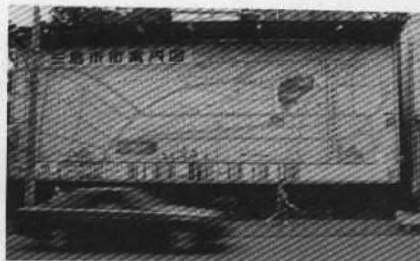


## 新しい飯能としてのアイデンティティを確立する

新しいまちに住む人々にとって飯能のまちはタウンウォッチングや路上観察の上で宝庫である。周りの川越や秩父などともに、この埼玉西部地域は独特の歴史と景観と文化をもっており、新しい住民にとって地名ひとつをとっても大きな興味を抱かせる魅力を有している。新しいまちと新しい住民の出現が、かえって飯能の既成市街地を再評価させ、そこに住む人々の新たな誇りと愛着を醸成させるものであり、永い歴史を有する土地だけがもつ都市としての奥性を尊重しながら、飯能の既成市街地の新しい魅力あるまちづくりが促進され、ビッグヒルズと飯能の市街地が、美しい環境と優良な住宅地が広がる新しいまちと、界限性に満ち歩いて楽しい歴史あるまちとして互いに認識され、それらが共生する新しい飯能のアイデンティティが形成されていくことが望まれる。

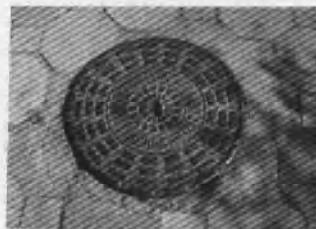
こども達が飯能の地名と歴史性を学習し、大人達もタウンウォッチングを繰り返し、自らの地域の魅力を発掘していくことが始まりである。

### 大きすぎる案内板



## 街の楽しさを発見・再発見するイベント

### 僕は「建築探偵団」の明智小五郎だ



ドイツ製  
マンホール

### 無用の階段



### 『まちづくりにおけるイベントのもつ意味』

川口 直木

まちづくりにおけるイベントのもつ意味は、大きく販促、新・旧住民の融和、来訪者との交流、地元意識の醸成やプレスステージづくり、の4つにまとめられ、それによってイベントの費用をどこが持つかが決まる。

どんなイベントが良いか、といったコンセプトの検討に関しては、住民と来訪者の時間の区分を考えるとわかりやすい。大きく分けると日常生活時間と余暇時間の二通りがあり、来訪者は余暇時間にやっつき、住民の場合は両方の時間でのイベントが考えられる。穏やかに暮らす日常においても自然をテーマにしたイベントがある一方、住民の余暇時間における都市的なイベントへのニーズもある。従って自然環境の良さが特色のまちづくりにおいても、自然一辺倒でなく、対比的に考えていく必要がある。自然十日常生活、自然十余暇生活、非自然十余暇生活の三通りぐらいの体系が考えられ、その三つを軸にしているいろいろな物をプログラムリングしていくことだろう。その中から残っていくものが出てくるわけだから、最初からはどれが残っていくかはわからないから、いくつか連続的に実施していく必要がある。

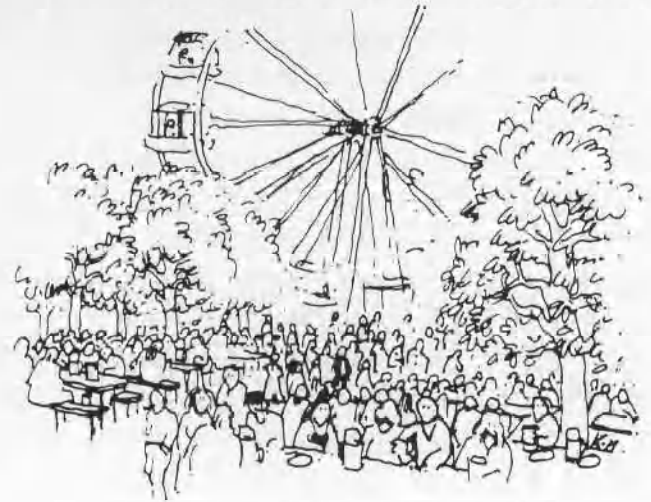


## 2. 都市の魅力と自然の魅力

### 刺激のあるまちのセンター

ビッグヒルズを特色づけるのは原自然につながる豊かな自然であるが、その自然のもつ魅力と同量の都市的魅力をまちのセンターはもっている。郊外のゆとりある豊かな生活は、時に単調さを感じて、ショッピングや飲食に出かける非日常的な楽しみへの欲求が強まるものであり、特にビッグヒルズのセンターは広域丘陵都市圏のひとつのセンター性をもつことが考えられることから、少し遠出してでも行ってみたい都市的魅力にあふれるセンターになっている。

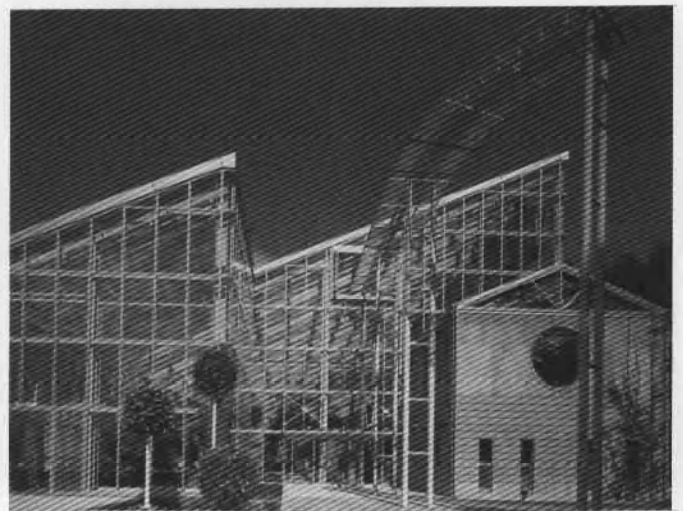
しゃれたショップやレストラン、カフェ、ウォーターパークや巨大温室の植物園などがあって、休日の1日を家族がそれぞれ非日常的な楽しみを満喫できる賑いをなしている。



### 社交と交流の都市施設と自然

ビッグヒルズのまちの中心には、商業的賑いだけでなく、ちょっとおしゃれをして音楽のコンサートや芸術を鑑賞できるまちの社交と交流の場もある。美術ギャラリーやコンサートホールといった施設の他、公園や広場を利用した音楽イベント、まちのお祭りなども催され、ビッグヒルズの住民や飯能市民、周辺の人々などが楽しみとして期待しながら集まってくるまちの社交場である。

都市的な環境の中にも、ビッグヒルズを特色づける自然環境の中にも、住民と来訪者が気軽に交流し、交歓し合うインターフェイスが形成される。



カーニバル・ショーケース

まちの中に渓谷と自然がつながり、自然の中にまちが繋がっていく

ビッグヒルズは都市的な賑いと魅力をもつセンターを中心とした都市性（アーバニティ）と、広大な渓谷と丘陵樹林を中心とする自然性が互いに貫入しながら、自然の系と都市の系が連続している。身近なまちの中の街路樹や水面を何気なく歩いていくといつの間にか深い森林と渓谷に達し、自然を散策している人が人気（ひとけ）を感じながら歩いて行くと、人々がカフェなどで交流し賑いのあるまちのセンターに達する。

こうした自然の系と都市の系の連続性は人間だけでなく、小鳥や昆虫、小動物を誘導し、風や光を導き、ビッグヒルズのまちのテクスチャーや肌合いを心地良いものにしていく。



### 『就業の場にふさわしい利便施設と住宅』

丹呉 一則

大鵬薬品はビッグヒルズへの進出企業第一号で研究所と宿泊・研修センターを既に開設しており、現在一三〇名位が働いていて、数年先には二〇〇〜三〇〇名になると思う。ほとんどが四国の徳島の研究所からこちらに来ていて、徳島とは地価が全然違うことから美杉台で住居を構えることができず、多くがアパート暮らしをしている。企業がこうした郊外地域に進出してきても、現在の首都圏の住宅状況ではすぐに持家が可能になるといった職住近接の夢は実現しない。

研究面ではビッグヒルズ周辺の緑や自然環境の存在がリフレッシュに役立ち、非常に喜ばれているが、生活面では七時ぐらいに普通の店が閉まってしまうため、食事をするにも事欠く程で、特に独身者は困っているのが現状である。施設内にバーなどを作っても、車利ユーザーは飲むことができず、こうした生活利便性をどう考えていくかが問題となっている。

ビッグヒルズのセンター施設などが早くオープンすることを期待するが、生活者だけでなく就業者にも配慮したセンターとなってほしい。



市の鳥……うぐいす

### 3. 遊びと学習と仕事

#### まちの中にある自然の遊び場

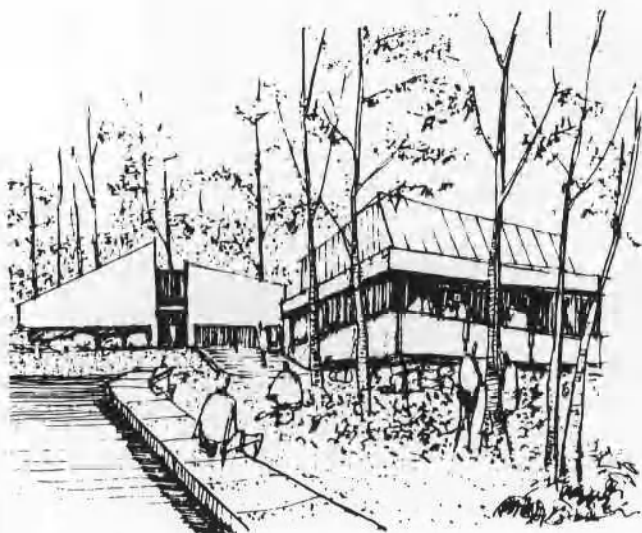
ビッグヒルズのまちの中に、山へと連なる自然の丘陵があり、また斜面緑地が多く残っている。ここは子ども達にとって大きな自然の遊び場となる。春夏秋冬の植物、昆虫、鳥、果実などを通じて自然を知り、自然と遊ぶ。子ども達にとって自然の林や原っぱは遊びのワンダーランドであり、自然を利用し活用する遊びが高学年から低学年へと伝承されていく。

また、子ども達の遊び環境や成長に気を配る親達も参加して、冒険広場やプレイパーク運動がこの自然の遊び場を舞台にして展開され、親と子の触れ合いと交流の場となる。ビッグヒルズのまちの中にある自然の遊び場は貴重な公共空間である。

#### 自然の中にある学習と遊びの材料

ビッグヒルズの豊かな自然は子ども達に学習と遊びの材料をふんだんに提供する。季節をつける花と樹木と昆虫、小動物達、河に生息するさまざまな生き物、変化する星座、太陽と月の運行など、自然が多くのことを子ども達に教え、また子ども達は草花や樹木を利用して遊ぶ。

ビッグヒルズの幼稚園や保育所は、シュタイナー式幼児教育機関など、特に自然教育を重視する教育機関との提携を検討し、ビッグヒルズや周辺の自然資源と環境を利用した、ユニークな幼児・児童教育を実践し、グリーン・フロントのまちにふさわしい教育や学習プログラムを開発していく。ビッグヒルズには自然の学習と遊びの材料がふんだんに存在する。



#### 自然を学ぶ環境学習センター

今日の都市住民はすでに自然環境との直接的接触を失って久しい。ビッグヒルズの自然を遊びや学習の場としていくためのガイダンスが必要となっている。子ども達だけでなく、親にとってもこうしたガイダンスサービスが必要である。

ビッグヒルズの特色である自然を生かしていく上でも、ユニークな教育や活動を住民の間に拡充していく上でも、自然を学び、自然を利用した遊びや活動を学ぶことのできる専門家などのいる環境学習センターが必要である。ビッグヒルズの住人の中から、子ども達や親に教えることのできる人が育っていくことが望まれる。



乗馬センター

#### 自然のレクリエーション — 溪谷と散策路とトレッキングコース

ビッグヒルズのまちには日常の中に心身のリフレッシュができる自然のレクリエーションの場が多く用意されている。溪谷の水のせせらぎは心の安らぎをもたらし、林の中の散策路は健康を維持し、増進させる心地良い時間をもたらしてくれる。

さらに溪谷から丘陵地にまで設定されるトレッキングコースはちょっとした山歩きの醍醐味を味わうことのできる山道である。樹間越しの陽ざしや溪谷をわたる吊り橋、ちょっとした岩場や展望のきく峠などは親子で楽しむことのできる小さなハイキングであり、小さな旅である。日常の中の自然のレクリエーションの場の存在は、ビッグヒルズの名所である。

### “手技”が学べる工芸の里

本格化する余暇時代の中で、生涯にわたって生きがいとなるような工芸やクラフトが学べる環境がビッグヒルズにはある。陶芸やテキスタイル、木工などが学べ、自分で制作し、そうして自分でつくったものでわが家を飾り、生活していく。グリーン・フロントのまち、ビッグヒルズの生活を豊かにしてくれる。

このまちには工芸やクラフトの専門家が住み、その工房が教室となり、みんなのサロンとなっている。作ることが楽しみ、生きがいとなっているが、なかには素人の域をこえ、専門家になって収入をあげている人もいる。こうした“手技”を日常的に学ぶことのできるまちもビッグヒルズのひとつの姿である。



### ホーム・オフィス、コミュニティ・オフィス、サテライト・オフィスの試み — 仕事場もあるまち

ビッグヒルズは住宅だけでなく、仕事場もある。情報化社会のメリットを十分に生かし、家の中に自分のオフィスをもつ人もいる。また、企業の研究所やデザインセッションのサテライト・オフィスやコミュニティ・オフィスもある。

こうした住宅地の中の仕事場の存在は、育児と仕事を両立させようとする女性にとっても必要なものである。高学歴をもつ女性達が、スーパーマーケットなどのパートだけでなく、コミュニティ・オフィスやサテライト・オフィスの中で、ハイテク機械を駆使して存分に仕事をこなしている姿は美しい。

住宅地の中に仕事場のあることは男性には職住

近接によるゆとりある生活を実現させ、女性には育児と両立する能力を生かした仕事を提供する。ビッグヒルズには仕事場もある。



リゾートハウスのようなオフィス

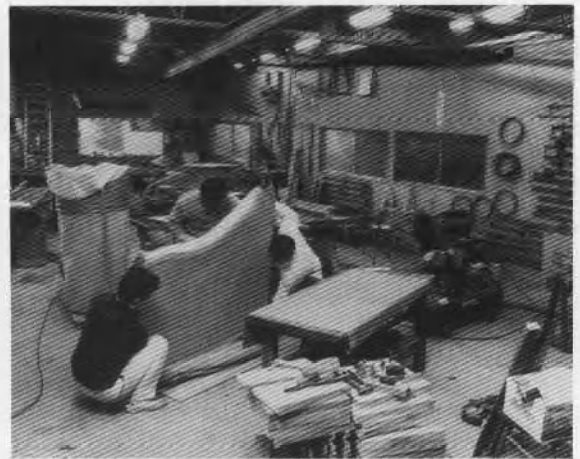
## 4. 生きがいとなる“手技”を学べるまち

### 生きがいを見つける

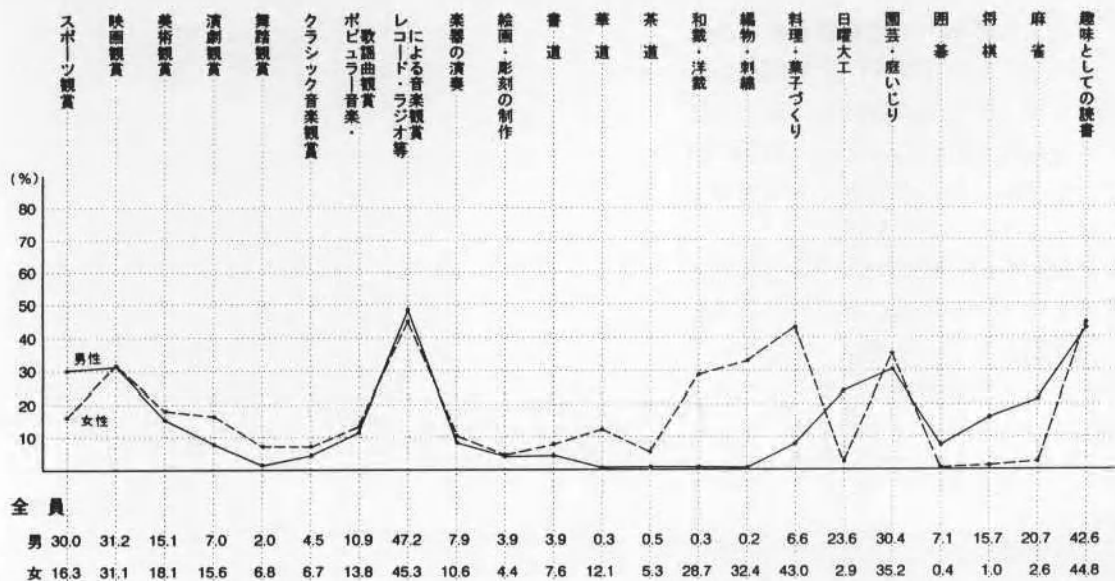
人々の生活価値観が大きく変ってきている。これまで経済価値至上主義でやってきた日本社会が、一定程度の経済的充足を達成しつつあることから、物の豊かさを求めてきた志向性から精神的な豊かさを志向する人々が現在では多くなっている。

こうした価値観の変容を背景に、人々は生きがいや自己実現の場への希求が強まってきており、このことが最近の生涯学習や芸術文化への熱意の広がりを生んできている。文化的な活動への環境整備は既に社会のインフラ・ストラクチャーとしての認識が必要となっている程である。

ビッグヒルズというまちは定住の地として、ここに住む人が生涯にわたっての生きがいを見出し、自己実現を可能とするプログラムを多様にもち、グリーン・フロントという環境の中で、積極的な参加活動を行う新しいライフスタイルの確立をめざすまちである。文化活動、福祉・環境や自然の保全と学習などの多様なプログラムの実践を通じて、ビッグヒルズというコミュニティ意識を醸成し、わがまちという地域への愛着を生んでいく。まちの中で生きがいを見つけることがビッグヒルズのめざすまちである。



趣味・娯楽の種類別参加率(「昭和61年社会生活基本調査」総務庁)





### 生きがいとしての“手技”

ビッグヒルズの周辺には、“手技”に関わる資源が多い。養蚕や絹、織物、染色、陶芸、木工などの資源が存在し、専門家が多く居住している。こうしたクラフトともいえる手技は日本の伝統的文化として生活の中に永く定着していたものであり、現在はこうした伝統文化や生活様式への見直し気運が強くなっていることから、人々の余暇における生きがいとして参加する人が多くなっている。

飯能において既に定着している工芸家のもとには、周辺の女性を中心とした教え子が集まってきており、工房がスクールとして、サロンとして活動している例もあり、ビッグヒルズのまちのそこそこは、こうした手技の専門家の集住を促進し、同時にスクールとして、サロンとしての交流機能を付加しながら、ビッグヒルズの住民が生涯にわたっての生きがいとなる文化活動を見出すことのできる環境づくりを実現していく。文化のまちというゾーン・キャラクターを形成するシーズとして、コミュニティ形成のシーズとして大事に育てていくまちづくりを推進していく。



## 5. 森林と菜園

### 森林を維持する新しい試み

ビッグヒルズの中に公共緑地として残された緑は、グリーン・フロントを形成する森林の一部である。この緑が、単に保存公共緑地として閉ざされた管理がなされることは、市民の財産としての森林の価値を半減させる。

豊かな恵みをもたらし、ライフスタイルを彩る材料を提供してくれる森林の維持について新しい試みが、なされるべきであろう。ビッグヒルズの緑地計画は、単なる空間整備計画にとどまらず、将来の森林活用プログラムを提供しながら進められる。ビッグヒルズの中の森林維持に対する積極的な試みが、林業経営の停滞の中で、そのあり方が問われている周辺の民有林からなる広大な森林の維持とグリーン・フロント都市圏での生活とのかかわり方をさぐっていくことになろう。例えば、森林や自然を愛好するボランティアグループを結成し、森林の環境整備の維持活動を展開したり、ビッグヒルズの住人やこの地をハイキングや山歩きで楽しむ人を対象とした友の会などを結成し、環境整備と維持のための基金を設けるなどして、これまでの公共か地権者か、といった二者択一的環境維持主体の構築ではなく、公的セクターと住民や来訪者までを含む新しい環境維持の体制をつくり、身近かなナショナル・トラスト活動を展開していくとともに、子ども達までを含む地域づくり運動としてのボランティア活動の輪を拡げていく。



多摩ニュータウン・グリーンライフセンター

### 森林は生活の糧を提供する

このようにして大切に維持される森林はグリーンフロントの生活への糧を数多く提供する。野草や自然の果実の宝庫であり、キノコも自生する。

またこの地域でこれまで生業としてなされてきたシイタケの栽培や養蚕なども、これまでのように産業として維持することは難しいが、自分達の自然食品の収穫や、新しいクラフト資源としてのシルクをつくるといった活動の上では、十分試みたい楽しさをもっている。

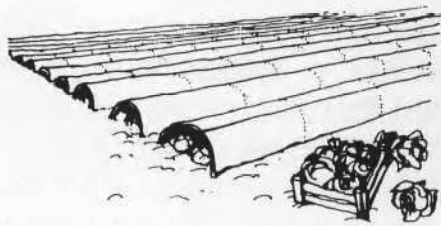
その他、森林の中にある染色の材料や木工の材料など、グリーンフロントの新しいライフスタイルや生きがいをつくっていく上で、実に多くの資源を森林は提供してくれる。リフレッシュのための緑空間としてだけではなく、生活を楽しくする糧を恵み続けてくれるのである。



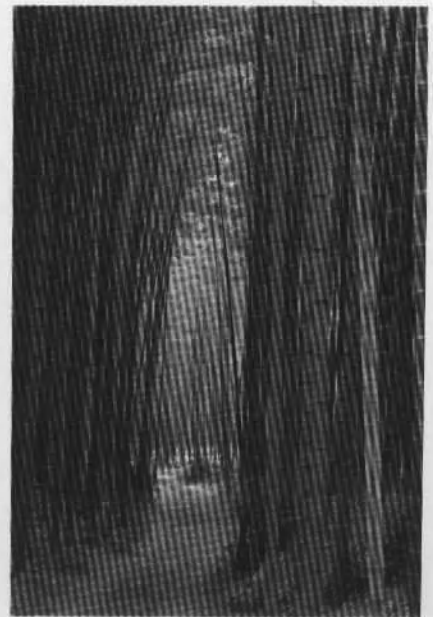
### 新鮮な野菜を自分達でつくる

グリーン・フロントのライフスタイルの基調は、自然志向のヘルシーでシンプルな生活である。自分の家の庭の菜園で、あるいはビッグヒルズの周辺の農地をクライン・ガルテンとして利用し、新鮮で無農薬の野菜を自分達でつくったり、周辺の農家の無人スタンドで手に入れる。

あるいはイチゴやトマト、ジャガイモの収穫を農家と契約して自分達でやったり、より積極的に農家と交流し、稲作や農作業の手伝いをしながら自分達の食品への関心を払うなど、グリーン・フロントにふさわしいライフスタイルの実現とともに、周辺の農林業に従事する人々との交流や、子ども達に野菜や果実などの栽培過程に触れさせる機会をもつなどして、新しい生活価値観の確立とコミュニティ意識を醸成していく。



農地の一面におかれた無人スタンド(世田谷区)

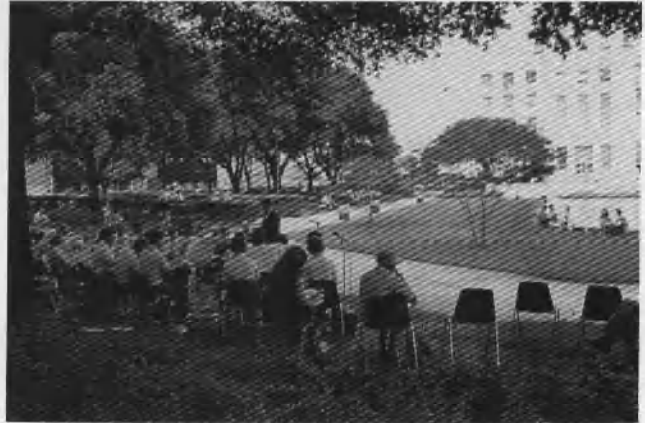


## 6. まちの行事とイベント

### 生活を彩るまちの行事

ビッグヒルズのまちには濃厚な自然が季節の変化を明快につげ、それにあわせて生活を彩る行事が催される。春の訪れをつげる周辺の寺院で開かれる花まつりや梅や桜の花見、ゴールデンウィークなどを利用した新緑の美しさを楽しむ河原のバーベキューパーティや家族ハイキング、梅雨どきのあじさい寺やあじさい公園、ホテルの舞う公園緑地、夏の夜を彩る花火大会や夏まつり、河原での川遊びフェア、秋のススキや月見の宴、秋まつり、紅葉狩り、そして冬景色や新春を祝うさまざまな行事がまちの行事として行われ、まちの成長と子どもや住人の記憶に刻まれていく。

自然の移ろいととも、まちとしてのソフトプログラムが季節の変化をつけていく。



### 夏の日のアート・フェスティバル

夏の日には音楽、美術、演劇、映画などのアート・フェスティバルが開催される。ビッグヒルズのハード施設が整備されていない時期には、仮設や屋外環境を利用して、施設整備がなされた後は文化施設や野外環境を利用して、時には河原や自然環境を利用して開催される。樹陰のコンサートや夏の夜の映画フェスティバルなど、ビッグヒルズや飯能に住む人の非日常的な楽しみを与えてくれるイベントが夏の日々の記憶として定着していく。

また、ビッグヒルズに住むアーティストやクラフト作家によるサマースクールも楽しい。若い学生に教え、子ども達や市民に教え、そして共に制作しながら交流するサマースクールが、音楽や美術、工芸などのジャンルで行われ、ビッグヒルズや飯能のまちの知名度を高めていく。



世田谷ぼろ市



ビッグヒルズの生活カレンダー

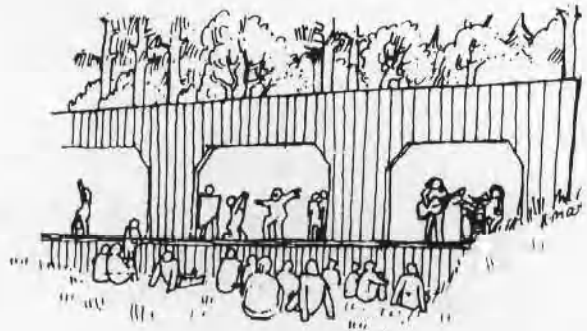
	行事と祭り	花	鳥と虫	食
1月	正月 冬休み 大祭 新年 毎まつり 松原の入り お休み 新学期 正月 正月 ゾールゲルンクイーク ハイキング	【熊鷹の祭り】 初日の出の祝い【天香山道場】(1日) 元日祈願祭【子の福屋】(1日) 大祭【豊妙阿天ダルマ市】【浄心寺】(7日) 大祭(天満宮)【加治神社】(15日) 大祭(天満宮)【子の福屋】(11日) 虚空蔵様E【水光寺】(13日) 大祭(幸玉祭)【心広寺】(14日) 大祭(天満り式)【清山不動尊】(15日) 大祭【善法新法神社】(15日) 大祭【八幡神社】(1日) 水仙 水仙	雁 ワグアイス ヒバリ ツバメ モシロコチャウリ カクコウ オタマジャクシ	おせち料理 七草 モチ 鍋料理 イモ煮会 春の野菜 花見弁当 イチゴ チマタ・柏餅 山梨餅り 和ぼろ餅 田舎
2月	毎まつり	水仙		
3月	ハッピーバースデー・ピググヒルズ (おちの誕生日)	水仙		
4月	長の家 ゾールゲルンクイーク	水仙		
5月	自然回廊ウォークラリー 草すべり大会	水仙		
6月	フアララランド・あじさい祭り	アジサイ	トンボ カエル	むね
7月	七夕まつり ピググヒルズ・アートフェスティバル 自然を学ぶ・知恵を学ぶサマースクール 夏祭り	朝顔	アブラゼミ カブトムシ ミンミンゼミ ヒグラシ	鮎豆 阿婆のバーベキュー スイカ 夏のバーベキュー 鮎餅りの屋台 水 トウモロコシ
8月	夏祭り 大会 キャンプ大会 夏祭り	朝顔	カブトムシ ミンミンゼミ ヒグラシ	鮎豆 阿婆のバーベキュー スイカ 夏のバーベキュー 鮎餅りの屋台 水 トウモロコシ
9月	月見の宴 秋祭り 秋祭り	コスモス ススキ りんどう サキヨウ 萩 萩の葉草	コオロギ キズ	ナン アトウ 新米 栗ごはん おき・きのこ 餅りの屋台 サンマ
10月	シムルバーサイーク	萩の葉草		
11月	クリスマス 「美しい星」写真展	イチゴの飾 紅葉	渡り鳥	キジ餅
12月	クリスマス・冬休み 大晦日	星祭り【高山不動尊】(本宮の日)		年越しそば

## まちの成長を共に祝うお祭り

ビッグヒルズのまちの歴史は今から始まっていく。住民の居住とともに家族の歴史がつけられ、まちの歴史が積み重ねられていく。

こうした家族の歴史と重ね合わせることでできるまちの成長を、住民総出で祝うことのできる新しいまちのお祭りをつくりだす。既にビッグヒルズに住む人達と新しく居住を始めた人達が、野原や河原で交流・交歓でき、共に楽しむことのできる楽しいお祭り、まちの誕生日を祝い誕生会ともいふべき年中行事である。

住民総出でまちの成長を祝うまちの、誕生会としてのお祭りがビッグヒルズのまちの歴史を積み重ねていく。



北海道広尾ミニ万里の長城



『住民もよその人も楽しみにして来る身近な行事』

瀬川 昌昭

ビッグヒルズに家を買って、定住し始めた人々にとつて、大きなイベントが開催されて何万人などといった観客がこの街に来るといった事態は好ましいとは考えられない。従って観光客的なものとの関連よりは、住民を本位にしたイベントを行ない、ビッグヒルズと飯能市街地に住む市民が楽しみにする行事として定着していく方が望ましい。そうした地元密着型の行事に、外部から人々が徐々に参加し交流していくプログラムにしていく。例えば植木市や朝顔市、あるいは何かのオリジナルなフリーマーケットを開催していくといった類のものである。

飯能の市街地の市民には既にいろいろな活動をしている趣味の団体や文化団体がある筈だから、そういった人達がもう一つ高度な活動を展開できる場やプログラムをビッグヒルズの方で用意していき、街おこしイベントとして実施していくことは歓迎されるに違いない。生活の匂いを漂わせたイベントで、市民参加を促していく必要がある。参加する手触りがないと、地域や街への愛着心とか土着精神が生まれにくい。地域のイメージが上がると愛着心も増して来る。ソフトの資産価値はそうした所にあるのである。



## あ と が き

土地や海を離れ、食べ物を採る作ることに決別し、都市に出て頭や身体を使った別の仕事で生計を立てる様な人が多数派になってから、まだほんの二十五年ほどしか経っていません。

固く言えば、都市の拡大を支えた工業化社会、情報化社会は、その社会固有の文化を十分成熟させていないと言えます。従って、生活文化の側面では、農耕をベースとするかつての社会における村落や都市の生活文化に拠り所を求めているのが実情と言えるでしょう。

ニュータウンや団地の生活は、確かに核家族のマイホームという家制度からの解放や自由を手に入れる道具だてでした。しかし、個々の人生と都市社会との暖かな関係の数々を生む様なプログラムが全くビルトインされていなかったために、家庭の崩壊や高齢化生活の問題などが起こっています。かと言って、経済の仕組みや教育の内容程度が江戸時代とは全く異なるのですから、今の人達の人生に十分納得のできる満足な価値観を創れるとは到底思えません。

新しい知識や社会の仕組み、その数の大きさ、技術の高度化などに対応した新しい暮らしの文化が、いま求められている、否、創り出そうとする息吹きがあちこちに見られる時代にさしかかっているとと言えるでしょう。

文化とは、人間が自然に対峙し、その暴力的な面をしのぎ、やさしさや壊れやすさを受け補修し、共存していくための知恵や工夫の数々です。そして文明とは、人間と人間の間での衝突を避け、やわらかくし、皆が共通の約束事を守って共に生きていくための仕組みです。

ニュータウンという住機能、緑機能、教育機能、商機能などを成立させる機能的な街をつくる以上に、（さらに職場機能を複合するなどということも超えて、）人生の各階程それぞれに、多様な価値観を見い出せる都市の暮らしができる場がいま求められているのです。子供には子供の遊びや学びや役割が生き生きとあり、お年寄りにも独身女性にも、暮らしが楽しめる社会の仕組みが用意されている様な街づくりが求められているのだと思います。

住宅都市整備公団の街づくり「ビッグヒルズ」は、こうした観点からニュータウンの概念を越える理念に基づいて行われねばならないと言えます。一方、飯能市は幸いなことに、首都圏のグリーン・フロントとも呼べる自然との接点にあります。古くからの社会を維持してきた街もあります。そこに自然探訪で訪れる人も居るし、新しく仕事を見つけて住みにくる人も居ます。これからの街づくりは、単なるハードな住宅地をつくる街づくりだけでなく、暮らし方、生活の中味に多様に人々がそれぞれに意味を見出し、これからその暮らしを実践してみる、そんな街づくりが可能な要素に恵まれた地域だと考えられます。従って「ビッグヒルズ」は、このような母都市飯能と車の両輪のように一体となって、将来の生活像をお互いに築いて

ゆく道具だてとしての役割を担うものだとも言えます。

この研究は、その実験・実践の糸口を見出すひとつの試みですが、既にいくつかの方向は見い出され、その場づくりの提案もなされており、そのフィジビリティや具体化について更に検討を深めなければなりません。しかしながら、社会ソフトを組むことが必須のことと考えられますので、街づくりハードと行政などの社会のソフト面の主体とが組んで事を始める体制をつくるのが先決です。未だ十分に深く研究が煮つめられていない段階ですが、関係各位の十分なお理解を得て、提案することのひとつでも実現し、新しい暮らしをつくることに貢献できることを切に願ってやみません。

なお、この調査を進めるにあたってご参画いただいた多くの方々に深甚なる感謝の心を持ちますとともに、今後もよろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

都市イベント企画会議代表幹事

南條 道昌

